

知って差がつく! ラメ糸トラブルの原因と対策 12連発

状況と原因の予測

メーカーのアドバイス

5 ラメ糸が検針機に反応する



メタリックな雰囲気のラメ糸は、「金属蒸着」されています。その金属は、「アルミニウム」「純銀」「錫(すず)」が大半です。

本来、検針機の目的である『鉄』は含まれておませんが、ラメ糸入りの商品がかたまるとき、感度が良い検針機は反応する事があります。

上記の内容をふまえて頂いて検針機の感度を調整して頂くのが一番です。

補足ですが、ラメ糸が「透けている」タイプのものは金属蒸着がありません。

パール調のラメ糸、透明、生黒のラメ糸に関しては上記の心配は無いと思われます。

6 金属アレルギーが心配



ラメ糸に使用されている金属は、「アルミニウム」「純銀」「錫(すず)」が大半です。(まれに、「本金」「プラチナ」もあります)

金属アレルギーの方が反応される金属は、それぞれ異なります。ご心配な場合、「ラメ糸メーカー」に金属の種類を確認されて、タグなどにご表示ください。

ちなみに・・・ラメ糸には蒸着金属が表面に露出しているものと、していないものがあります。

ただし、サンドイッチのような構造上、断面は露出しています。

7 混率が分からぬ



ラメ糸のベースは「フィルム」(スリット糸)で、材料は「ポリエステル」か「ナイロン」が大半です。

スリット糸をそのまま使うことは少なく「他の糸」と燃り合わせられていることが多いです。これによって、混率の種類が多くなります。
(※金属が表示されていないのは1%に満たないからです)

燃糸されている糸は、解燃(糸の燃りをほどく事)すると、燃った糸を見ることができます。

たまに、見えないくらい細い糸(無色の15デニールのナイロン糸や、ポリエステル糸など)と燃られています。

見逃さないよう注意が必要です。

8 番手がよく分からぬ



ラメ糸は、基本は「dtex(デシテックス)」(元は「デニール」)で表示しますが、短纖維の番手(「綿番手」「麻番手」「毛番手」)に換算されることもあります。

ラメ糸は短纖維に比べると質量が重く、形状は扁平なので力サ高感に欠けます。

同じ重さ(番手)の「糸」と比較した時、細いような印象を受けることが多いです。

ラメ糸を「番手」で探される場合は、目付(めつけ)的に、その番手の「重さが必要」なのか、風合い的にその番手くらいの「太さ・直径のものが需要」なのかを提示して、ラメ糸メーカーに聞かれる事がベストです。